

道徳的価値を自分事として捉え、物事を多面的・多角的に考える授業

- 1 **主題名** よいことと悪いことをよく考えて **内容項目** A 善悪の判断、自律、自由と責任
- 2 **ねらい** 自分がよいと思って撮った写真を消すと決めた「まり」の気持ちを考えることを通して、自分勝手に決めた善悪の判断基準による行為が相手を困らせたり傷つけたりする可能性があることに気付き、自分の行動に対してよいことと悪いことを区別し、よりよい選択をしようとする判断力を育てる。

教材名 あさがおのかんさつで(出典:「彩の国の道徳『未来に生きる』埼玉県教育委員会」)

3 **主題設定の理由**

(1)ねらいや指導内容について

内容項目「A 善悪の判断、自律、自由と責任」第1学年及び第2学年には、「よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと」とある。善悪を判断する基準には大きく2つあると捉える。1つ目は法による判断であり、2つ目は自他の気持ちを大切にしたい判断である。よいことや正しいことについて、人に左右されることなく、自ら正しいと信じるところに従って誠実かつ謙虚に行動することは、人として重要なことである。特に、価値観の多様な社会を主体的に生きる上での基礎を培うために、よいことと悪いことの区別が的確にできるように指導しておくことは重要である。

低学年の発達の段階においては、何事にも興味・関心を示し意欲的に行動することが多い反面、引っ込み思案になったり物おじしたりすることも少なくない。指導に当たっては、積極的に行うべきよいことと、人間としてしてはならないことを正しく区別できる判断力を育てることが大切である。

(2)これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は1学期の道徳科において、自らよいと思うことを行動に移せると気持ちのよさを感じられることについて考えた。生活科では、1人1台端末を用いて野菜の観察の学習を経験してきた。また、普段の生活では、みんなが使った用具を片付けたりごみを拾ったりするなど自分がよいと思うことを進んで行う児童が多い。しかし、低学年の発達の段階では、他律的で自己中心的な考えで行動しがちな傾向があるため、友達に問題の答えを教えてしまったり相手の分まで仕事をしてしまったり、思わぬトラブルを招くこともある。

そこで、本教材では、児童がねらいとする道徳的価値について問題意識をもって、善悪の判断について異なる立場から考えたり、自分との関わりの中で考えたりする活動を通して、自分勝手な思い込みによる行動が相手を傷つける場合もあるということに気付き、自分の行動に対してよいことと悪いことを区別し、よりよい選択をしようとする判断力を育てたい。

(3)教材の特質や活用方法について

本教材は、主人公「まり」が熱心にあさがおを観察する「みき」と「たけし」をタブレットで勝手に撮影した結果、「たけし」に不快な思いをさせてしまう話である。自分勝手な思い込みで二人を撮影してしまった「まり」の行動から、自分の行動の是非や善悪を判断する基準とは何かを考えるのに適した教材である。

本学級の児童の実態を受け、主に次の場面を中心に話し合う。

- ① そっと二人を撮影する場面
頑張る姿を撮りたいという思いで行動してしまう「まり」の気持ちを考えられるようにする。
- ② 「まり」が「たけし」に怒られて動揺する場面
「たけし」の言動を理解できず動揺してしまう「まり」の気持ちを考えられるようにする。
- ③ 「たけし」が怒る場面
勝手に写真を撮られた「たけし」の気持ちを考えられるようにする。
- ④ 「まり」が自分の行動を振り返る場面
自分だけがよいと判断した行動で相手を傷つけてしまったと反省する「まり」の気持ちを考え、役割演技を通して善悪の判断基準には相手の気持ちも考慮するよさに気付けるようにする。
以上の理由から、本主題を設定した。

4 学習指導過程

段階	学習活動と主な質問	予想される児童の発言	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	1 アンケート結果について知る。 アンケート内容 ①「〇〇はよい？ わるい？」 ②「よいこと・わるいことをどのように決めていきますか。」	・青信号で渡る →よい ・ごみを拾う →よい ・廊下を走る →わるい ・わりこみをする→わるい ・答えを教える →どっち？	・指導上の留意点 ☆評価の視点 ・自分との関わりで善悪の判断基準について問題意識をもてるように、質問内容は児童に身近で善悪の判断がしやすいものから、徐々に曖昧で判断しづらいものに変える。
<div style="border: 2px solid green; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 道徳的価値を自分事として捉えるためのアンケートを活用した導入 </div> <p>T:「よいこと・わるいこと」をどのように決めていきますか。</p> <p>C: 学校のきまり。交通ルール。</p> <p>C: 命にかかわること。</p> <p>T:「命にかかわる」とは、どういうこと？</p> <p>C: それか、安全かどうかで決めること。</p> <p>T: <u>なるほど。でも、もしも、きまりやルールがない時はどうすればいいのかな？</u></p> <p>C: うーん。よくわからない。</p> <p>C: 考えたこともないなあ。</p> <p>C: みんなと考えてみたいな。</p> <div style="border: 1px solid green; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> 善悪を判断している基準について自覚できるように、児童のつぶやきをつないで、ねらいとする道徳的価値についての問題意識をもてるようにした。 </div>			
展開	2 教材の人物や条件・状況を知る。		・全員が円滑に話し合いに参加できるように、教材の人物や条件・状況について一つ一つ丁寧に確認する。

・登場人物……まり、みき、たけし、先生
 ・条件、状況… タブレットで撮ったあさがおの写真を先生にほめられた「まり」は、熱心に観察をする「みき」と「たけし」を見つけて黙って撮影する。

3 教材「あさがおのかんさつで」の読み聞かせを聞き、話し合う。

(1)二人を撮ろうと思ったまりは、どんなことを考えたのだろう。

(2)何も言えなくなったまりは、どんなことを考えたのだろう。

(3)たけしは、なぜ怒ったのだろう。

・頑張る二人のことを先生やみんなに知らせたい。
 ・二人を喜ばせたい。
 ・邪魔をしなければ平気。

・何で怒るの？
 ・喜んでくれないの？
 ・すごくいい写真なのに…。
 ・撮って損した。

・撮る前に聞いてほしかった。
 ・はずかしいから嫌だ。
 ・人に見られたくない。

・児童の印象に残るように、速さ、声色、間などを考えて読む。

・頑張る二人を撮りたいという思いで行動してしまうまりの気持ちに共感することで、悪気がなく衝動的だった行動について考えられるようにする。

・予想外のたけしの言動に動揺するまりに共感することで、善悪の判断に悩み、自分の行動を考えられるようにする。

・まりの行動に対する感じ方の違いから、不快に思ったたけしの気持ちにも共感し、人によって異なる価値観について考えられるようにする。

物事を多面的・多角的に考えるための問い返し

T：まりが撮った写真をみきは喜んでくれたのに、たけしは怒った。どうして？

C：写真を撮られることを、みきはよくても、たけしは嫌だったから。

T：でも、まりは邪魔をしないようにそっと撮ったんだよね。

二人の頑張りがわかるいい写真なのに…。

C：どんなにいい写真でも、勝手に撮られたことが許せなかったんじゃないかな。

C：撮る前に聞いてほしかったんだと思う。

T：そうかあ。まりとたけしの考えを比べるとどう？


C：たけしの考えは、「写真を撮ってもよい」と思うまりの考えとは反対だ。



道徳的価値を自分事として捉え、多様な考えを引き出すために「みんなはどう思う？」「～さんと同じかな？それとも違うかな？」などの発問を繰り返すことで、児童の考えを受け止め、繋げ、全体に広げた。

板書は、発表ごとに書かず、児童の思考が途切れないように発表内容を記録し、内容をまとめて端的に記した。

<p>(4) 自分の行動を振り返って、まりは何に気付いたのだろう。</p> <p>(中心的な発問)</p> <p>まりは、たけしに何と言ったのだろう。</p> <p>(役割演技)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・たけしの気持ちを考えていなかった。 ・自分だけで「よい」と勝手に決めていた。 ・ごめんね。私、写真を撮るのは、よいことだと思っていたんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・役割演技を通して、相手を傷つけてしまったと反省するまりの気持ちに共感し、道徳的価値をより深く理解できるようにする。 <p>☆まりに自分を重ねながら、自分だけでなく相手のことも考えた善悪の判断について多面的・多角的に考えている。(発言・役割演技)</p>
---	---	---

<p>道徳的価値の理解を深めるための役割演技</p> <p>※ は教材文の一部</p> <p>T : まりは、たけしに何と言ったのかな。</p> <p> の後に続けて演技してみましょう。</p> <p>(C : まり T : たけし)</p> <p>C : ごめんね。私、 たけし君に喜んでほしくて写真を撮っちゃったんだ。</p> <p>T : うん。でも、これからは、 <u>撮る前に一度聞いてね。ぼくの気持ちも考えてね。</u></p> <p>C : うん。わかった。今度は、たけし君の気持ちを大事にするから安心してね。</p> <p>(演技後、まり役の子童に対して)</p> <p>T : <u>どんな気持ちで謝ったの？</u></p> <p>C : たけし君に「もう嫌な思いをさせない」という気持ちを込めて謝った。</p> <p>(役割演技を見ていた子童に対して)</p> <p>T : <u>見ていたみんなは、どう思った？</u></p> <p>C : 「たけし君の気持ちを大事にする。」がよかった。たけしも安心したと思う。</p> <p>C : たけし君の嫌な気持ちがわかったから、まりは自分が悪いと謝れたんだと思う。</p>	<p>「規律ある態度」の育成</p> <p>【話を聞き、発表する】</p> <p>役割演技で「話を最後まで聞くことができる」ことを意識するように声をかける。</p> 
<p>まりの気持ちに共感し、たけしの気持ちを慮る考えを引き出す即興性のある役割演技となるように、児童は「まり」役、教師は「たけし」役を演じた。</p>	

<p>4 自己を見つめ、振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの自分は、「よい」「わるい」をどう決めましたか。 ・今日の学習で気付いたことは何ですか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までは、きまりでよいことや悪いことを決めていたけれど、相手の気持ちを考えることも大切だと気付きました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・善悪を判断して行動することについて自分との関わりで考えられるようにするため、導入のアンケートを提示する。 <p>☆善悪の判断について自分の体験と関連付けて考えたり、よいと思うことを進んで行うことについて書いたりしている。(ワークシート)</p>
---	---	---

自己を見つめる活動

自己を見つめる活動では、発達の段階を考慮して3つの視点でワークシートに記入した。

- ①これまでの自分
- ②今日の学習で気付いたことや学んだこと
- ③これからへの思い



③
 友だちの気もちもかく
 はんしてきこめたいです。

②
 りました。これがらま、
 キこめるのはダメだと知

①
 いをきこめていました。でも、
 自分だけでは、きこまりてよいある
 今までは、きこまりてよいある

*テーマよいこととわるいことどうきこめる？
 *きょうせい名 あやがおのかんせつで

③
 気もちを聞いてよいある
 をきこめたいです。

②
 あります。でも自分がよいと思
 ってもあい手はちがうと
 わかりました。あい手の

①
 わたしもきこまりさんと
 同じしゅっぱいをしたことが

*テーマよいこととわるいことどうきこめる？
 *きょうせい名 あやがおのかんせつで

道徳的価値の理解を深めるために、これまでの自分を振り返りながら書いている児童を意図的に指名する。



終末	5 教師の説話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいとする道徳的価値への意識を高められるように、自分の経験から印象に残っていることを伝える。
<p>小学生の時、私は友達とよくテレビゲームをしていました。ある日、なかなかクリアできずにいた友達を見た私は、つい攻略法を教えてしまいました。すると、友達は「何で言うんだよ。」と怒って帰ってしまいました。</p> <p>次の日、私は勇気を出して友達に話を聞いてみると、「勝手に教えてほしくなかった。自分でクリアしたかった。」という理由を知りました。</p> <p>それで、私は自分の「よい」と相手の「よい」が違うこともあるんだな。だから、自分だけで「よい・悪い」を決めちゃいけないんだなと気付くことができました。</p>		

5 板書



6 他の教育活動との関連

- ・生活科や図画工作科で作品を撮影する際、よいことと悪いことを区別して1人1台端末を使用できるようにする。
- ・日常生活における物事の善悪について、相手の気持ちも考慮した上で的確に判断し、行動できるようにする。

7 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・主人公に自分を重ねながら考え、よいことと悪いことの区別について話し合っている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・善悪を判断することについて、これまでの体験と関連付けて考えたり、自分がよいと思うことを進んで行うときには他者の思いも考慮したりすることを、自分との関わりで考えている。